

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数)

- | |
|---|
| <p>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。</p> <p>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。</p> <p>調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。</p> |
|---|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

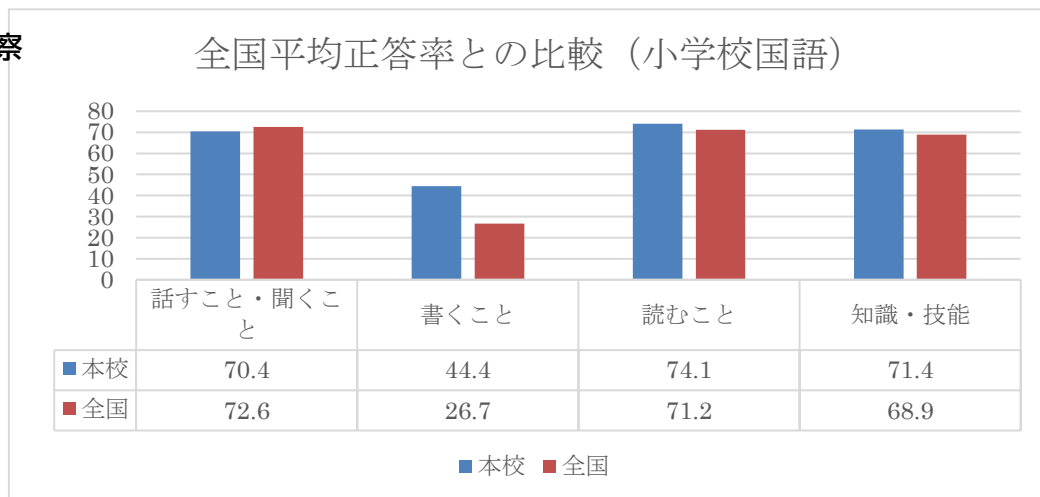
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了承の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「B 書くこと」「C 読むこと」「知識・技能」が、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率は0.0%でした。

(2) 成果と課題

今回の調査で、全国平均と比較したところ、「B 書くこと」で17.7ポイント、「読むこと」で2.9ポイント、「知識・技能」で2.5ポイント上回りました。国語科における「思考・判断・表現」の「書くこと」と「読むこと」の領域で成果が出ていると言えます。「知識・技能」は、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。無解答率も0.0%であり、問題形式の「記述式」の正答率も全国平均を約20ポイント上回っているため、内容を理解し、記述して解答する力は身に付いてきていることがうかがえます。

課題は、「A 話すこと・聞くこと」の領域です。インタビューの場面で、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの内容を捉える問題に課題が見られました。「A 話すこと・聞くこと」の領域における授業の中で、自分自身や友達の「話す・聞く」姿に意識を向けさせるためにも、1人1台端末の活用が考えられます。録画機能を用いて、話し方・聞き方について見直させたり、内容について考えさせたりすることで、力を付けていくこともできていると考えています。また、日常生活のあらゆる場面で「話すこと・聞くこと」が活用される場面がありますので、普段の生活から意識して聞いたり話したりする指導を行い、力の育成に取り組んでいきたいと思えます。

(3) 学力向上のための取り組み

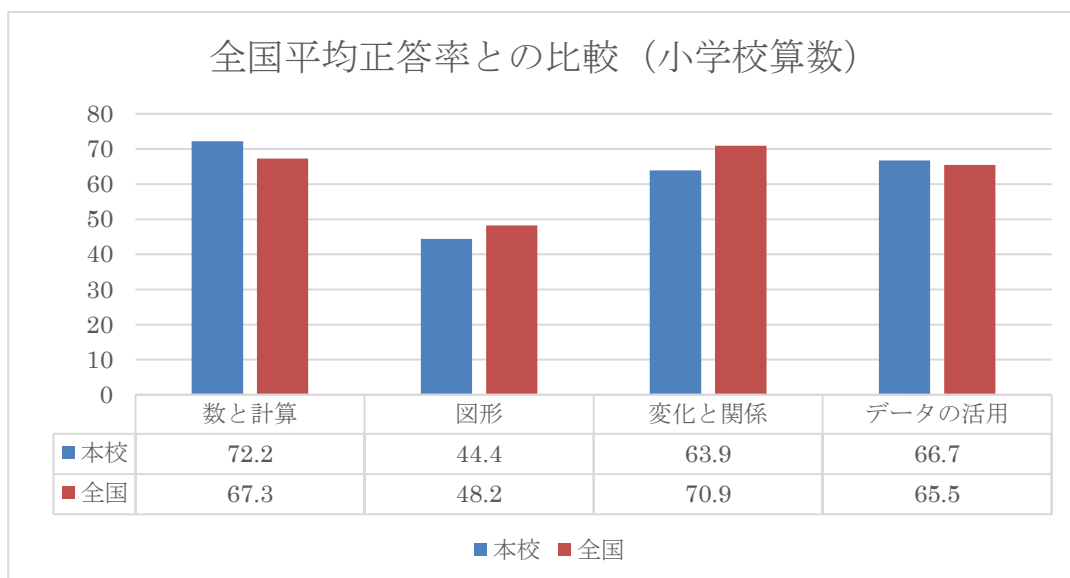
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、1人1台端末の効果的な活用も取り入れながら、子ども同士が対話を通して深く学んでいけるようにします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの内容を捉えるため、インタビューや、案内紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。幅広い分野の本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。ご家庭でも読書の声掛けをお願いします。

2 算数



(1) 結果

全体としては、ほぼ全国平均と同等の結果でした。しかし、「B 図形」と「C 変化と関係」では全国平均を下回っています。また、無解答率については、0.0%でした。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の乗法の計算や加法と乗法の混合した整数の計算、分配の法則を用いた計算の問題については、100%の正答率でした。朝の時間を活用した計算スキルタイム、プリント等による習熟が成果となって表れていると考えられます。しかし、「B 図形」領域の正三角形の意味や性質の理解、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する問題の正答率が低く、この領域における理解について課題があることが分かりました。まずは、基礎的基本的な内容理解について、理解の定着を図る授業改善が必要であると考えています。それを踏まえ、問題形式の「記述式」の問題について、理解した内容を基にして、数や言葉で理由を記述する力の育成を目指します。算数においては、理由を説明、記述する問題の正答率が低かったため、普段の授業の中で、問題解決のための「見通し」をもって考え、「話し合う」場면을重視して一人一人が考えをまとめる場面を設定していきたいと考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 問題解決のために、「見通し」をもつ段階を大切に、自力解決の力の育成に努めます。
- さまざまな見方や考え方ができるように、ペアやグループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、数や言葉を使って、理由を付けて論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 算数は、少人数での指導を行っているため、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉を掛けてください。褒めることから始めましょう。
- 算数が好きになるきっかけとして、「学習したことが生活の中で使えて便利。おもしろい。」と思う経験をさせることが有効だと言われています。生活の中で算数につながるような場면을意識して、声を掛けたり、一緒に考えたりするとよいでしょう。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

- (1) 結果 ※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	77.8%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	33.3%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	33.3%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	22.2%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	55.6%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	88.9%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	88.9%	82.6%

朝食・起床・就寝、自己肯定感の項目については全国平均を下回っています。

「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していくことが大切だと考えています。また、自己肯定感を高めるために、家庭と連携を取りながら、子ども一人一人をしっかりと見つめ、褒めることを大切にしていきたいと思います。

規範意識については、肯定的な回答をした児童の割合が、全国平均よりも上回っています。その意識を大切に今後への指導に生かしていきたいと思います。

《家庭学習の様子について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	22.2%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。	0.0%	11.8%
「3時間以上」		
「2時間以上、3時間より少ない」	22.2%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	44.4%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	22.2%	26.9%
「30分より少ない」	11.1%	11.4%
「全くしない」	0.0%	4.6%

家庭学習の時間については、1時間から3時間程度が多く、学級で取り組んでいる家庭学習のやり方が定着してきているのを感じています。しかし、まだ1時間未満の児童が3割以上います。家庭学習の手引きを基に、家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣化の大切さについても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても高学年で取り組み、手本になる自学ノートを掲示しています。これから下学年にも少しずつ広げていきます。
- 朝の読書の位置付けや、校内研究の一環として「味見読書」でさまざまな本を読むよう勧めたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 本校は小中一貫校ですので、中学部のテスト期間に合わせ、小学部でも「家勉強張ろう週間」を設定しています。家庭と学校とが連携して、家庭学習の定着を目指しましょう。
- 下敷きに付いている「北山小家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。できたことは褒め、今後の意欲につなげましょう。